

MITSUBISHI

気流Express

vol.21

三重県立
熊野古道センター 様
エアースイングファン 27台



気流エクスプレスは、気流応用商品のさまざまな納入事例とご採用のポイントをご紹介します。“気流”の専門(Expert)誌(Press)です。



平成16年7月7日に、熊野古道を含む「紀伊山地の霊場と参詣道」が、**世界遺産リスト**に登録されました。

それから3年後、世界遺産登録を記念に平成19年2月10日、**三重県立熊野古道センター**が、尾鷲湾が一望できる絶景の場所に設立されました。センターには「交流棟」「展示棟」「研究収蔵棟」の3棟があり、観光客や地域の人々がくつろいだり、熊野古道の歴史に触れ、学んだりすることができます。また、地域の特色を生かした展示会や体験学習教室などを開催しており、熊野古道を通して日本文化の奥ゆかしさを学ぶことができます。

建物の意匠と調和しながら 快適な環境を実現

目立たず確実にサーキュレーション効果を発揮

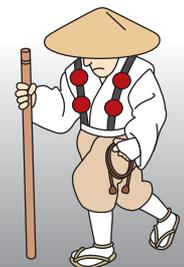
三重県尾鷲産の檜をふんだんに使った熊野古道センターは、館内も檜をたくさん使用しており、建築デザインのセンスを一層引き立てています。エアースイングファンは、建物の意匠を壊さないように、与えられたスペースにコンパクトに収められつつ、**確実にサーキュレーション効果**を発揮し、館内空調温度の均一化に貢献しています。

ご採用のポイント

- サークュレーション効果
- ダクト配管が不要
- 限られたスペースに設置が可能

世界遺産・熊野古道とは

自然の営みや人々が育んだ長い歴史を経て生み出され、過去から現在へと引き継がれる貴重な遺産——。普遍的な価値がある文化遺産は「世界遺産条約」に基づき、各国で貴重な遺産として保護されています。熊野古道は、平成16年7月7日に世界遺産登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」に含まれる参詣道のひとつで、伊勢や大阪・京都と紀伊半島南部にある熊野を結ぶ道です。聖地・吉野からさらに南に位置する熊野は、古くから神々の住む聖地と死霊の集まる再生の地として崇められ、かつての人々は厳しい道を乗り越えて熊野へ詣でることで、来世の幸せを神々に託し、信仰を深めていました。



「デザイン性を損なわない」「限られたスペース」「高天井」の条件をクリアして、サーキュレーションができました。

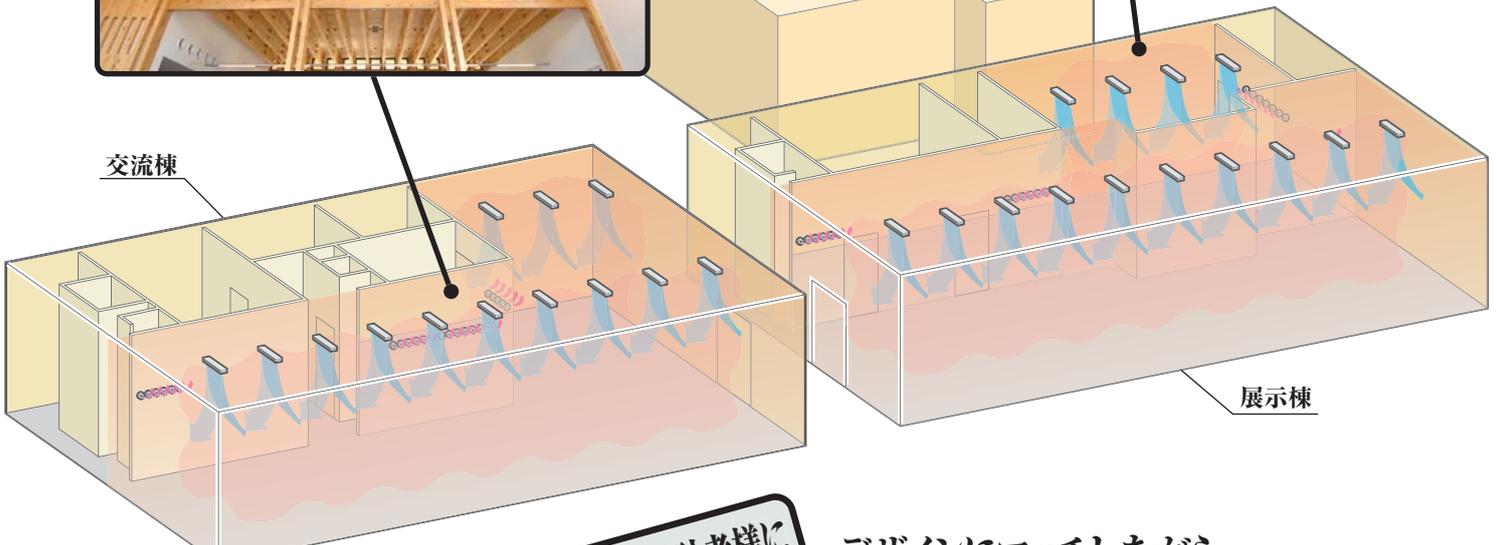
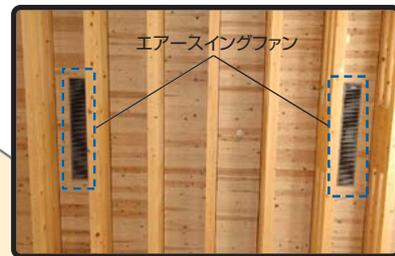
熊野古道センターは、建物は地元産の尾鷲檜約6500本を用いた建築となっており、天井も高く、すがすがしい木造のデザインとなっていますので、空調設備は建物の意匠を壊さないことが条件でした。空調吹出口は壁面に設置し、なるべく天井には機械を設置しないように設計していましたが、高天井のため冬季の暖気上昇に困っていました。この対策としてエアースイングファンを梁と梁の間に目立たないように設置することにしました。エアースイングファンについては、社内でも知られており、設備設計の初期の段階から採用を計画していました。

天井は梁が等間隔に並んでいるためスペースが限られていますが、エアースイングファンはコンパクトなので、限られたスペースに収めることができました。音も静かで気になりません。他社にも同様の機能の製品がありますが、騒音が高いので、今回の施設には採用できませんでした。

設置後、冬季に室温を測定しましたが、目標の20℃をクリアしており、効果的にサーキュレーションされていることが確認できました。

ここがポイント
設計者様に伺いました!

株式会社 総合設備計画
設計監理部
建築設備士 木村 彰彦様



ここがポイント
建築設計者様に伺いました!

株式会社建築研究所
アーキヴィジョン
堀部 雄平様



デザインにマッチしながらサーキュレーションが可能な製品です。

熊野古道を歩くと檜や杉が林立した針葉樹の森から直線的な印象を受けます。熊野古道センターのプロポーザルでは木造建築が求められたことから、地場産材である尾鷲檜を用いて、古道に感じた端正な直線の力強さを表現したいと考えました。

エアースイングファンは、その中で水平を強調した屋根や天井のデザインを損ねることなくサーキュレーションができたので、今後も機会があれば採用していきたいと思っております。

ご採用データ

機種名		台数
エアースイングファン 本体	: AS-915CSA (単相100V)	20台
専用グリル (縦格子グリル)	: AS-GR915A	20台
エアースイングファン 本体	: AS-908CSA (単相100V)	7台
専用グリル (縦格子グリル)	: AS-GR908A	7台
リモコンスイッチ	: FS-02ASR	12台

〈延床面積〉 約2,429㎡

